

第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017 年 5 月 13 日（土）～14 日（日）

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松

ワークショップ 17	
企画名	パネルディスカッション：人工知能・IoT 時代における総合診療医の役割と課題
日時	2017 年 5 月 13 日（土） 16:45～18:15
会場	第 5 会場（サンポートホール高松 ホール棟 7F 第 1 リハーサル室）
企画責任者	小林 只（弘前大学医学部附属病院 総合診療部）
定員	96 名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>テクノロジーの発展により否応無しに変わっていくだろう地域・医療現場に、我々は適切に対応していけるだろうか？ テクノロジーの発展は現場で実施可能な検査やそれにより得られる情報を急増させた。近年、第 4 次産業革命とも称される IoT（Internet of Things）の出現はあらゆるモノをネットワーク化し、健康ブームに相まってヘルスケア関連のデータを収集する機器（ヘルスケア・デバイス）が氾濫し始めた。既に、この渦に医療者・患者・住民が巻き込まれ、多くの企業によりヘルスケア産業から生まれた新しい市場の獲得競争は激化している。現実には、一般人がセルフチェック目的で、安価・小型な機器により測定したバイタルサイン（例：血圧、脈拍数、酸素飽和度）、検体検査（例：血糖値・CRP）、生理検査（心電図・呼吸機能・超音波検査）、人工知能（AI）による自動診断等の結果、等への不安・主訴が増え続けている。その中、社会状況に合わせて患者・地域の対応を期待される総合診療医に向けて、2015 年に当学会で「ヘルスケア・デバイスによる地域・医療機関の混乱を防ぐためのプラットフォーム作りを目指して」のテーマでシンポジウムを開催した。</p> <p>今回は、これまでの歴史的経緯と最近の 1 年間の変化と進捗を加味して、「AI?IoT 時代の総合診療医の役割と課題」の題下、本分野の先駆者達と議論する。</p>	
<p>【概要】</p> <p>【パネルディスカッション】</p> <p>司会： 古屋聡、並木宏文</p> <p>演者： 小林只「不安と不安への対応という循環～これからの医療者に必要なスキル～」 原正彦「適切に収集・分析されたビッグデータの地域・社会への適応方法の問題点と解決策」 米田博輝「Rocky note から振り返る、変化し続ける現場における臨床医の正しい悩み方」 入江喬介「テクノロジーの発展と人の思い：若手医療者に期待したいこと」 中野智記「地域とテクノロジーの関係～”集約化→分散化→個別化”の流れの中で～」</p>	